

第8回帯広市産業振興会議 議事要点

■日時：平成22年1月9日(土)10:00~12:00

■場所：帯広市役所10階第6会議室

○「観光交流拠点施設」について、事務局から市側の基本スタンス、事業趣旨・経過等について説明があった後、事業提案者から資料・図面によりプロジェクターで説明をした。

主な質疑・意見等は以下の通り。

・この施設は観光客を対象としたものか。或いは市民か。また、市の助成金がなければ、設置はできないのか。ばんえい競馬が無くなったとしても、継続はできるのか。
⇒(提案事業者)観光客と市民の両方である。良い施設を作りたいので助成金は必要である。競馬場が無くなっても成立できる事業である。

・産直市場を設置することだが、管内の産直市場と連携して事業をすすめるのか。
⇒(提案事業者)事前に情報収集をすすめてきた。管内農協の意見も取り入れて、他の施設との差別化を図っていききたい。

・産直で競馬場に人が来るのか疑問である。東京のスーパー銭湯(大江戸温泉)のように、ここに来れば楽しめる施設でないと人を呼び込めないと思うが如何か。
⇒(提案事業者)ピザの店では自分たちでトッピングができる参加型を考えている。また、楽しめる施設は集客イベントなどで可能となるが、今後さらに研究していききたい。

* (提案事業者はここで退席)

・想定人数として、観光客と市民の割合をどの程度みているのか。街なかの飲食店と競合しないのか。また、駅とのアクセスや施設の滞在時間をどの程度想定しているのか。
⇒(市)想定人数は店舗のお買い上げ人数である。1人のお客が3店舗で買い物をすると人数は3倍となる。割合は現時点では把握していないが、今後の報告のなかで明らかにしていきたい。中心市街地の活性化については、相乗効果が上がるよう努めていきたい。駅とのアクセスについては、バス会社と連携を図っていききたい。滞在時間については、ばんえい競馬と連動して延ばしていく。

・ばんえい競馬は男性中心、産直市場は女性中心の客層であるが、この施設は男女の比率をどの程度想定しているのか。

⇒（市）これから明らかにしていきたい。

・ばんえい競馬との連携がよくわからない。この施設の売りは何か。ばんえい競馬を市の指定有形文化財に指定してはどうか。

・産直ゾーンにわざわざ来て買い物をするのか疑問である。レストランゾーンは市内には外から来て食べる場所が余りないので良いと思う。管内の農協さんは、農産品の流通市場として本州を見ている。

・競馬場の交通アクセスを考えると、東側からの車の導線の問題や集客をはかるには参加型のイベントが必要であるがどのように考えているか。

⇒（市）駅からの路線バスやレンタサイクルの活用により、交通アクセスを考慮していきたい。参加型のイベントは今後先方と協議していきたい。

・観光交流拠点施設としてふさわしい施設という印象である。今後はソフト事業にも期待したい。ばんえい競馬は産業振興というより政治課題である。今回の建設手法についてのメリットを伺いたい。

⇒（市）公的な施設の建設手法は、官設官営、官設民営、民設民営の手法があるが、今回の場合には、新しい手法だが民間の能力を發揮しやすい民設民営方式を採用した。

・この施設は、ばんえい競馬の施設なのか、観光交流拠点施設なのかが不明確である。また、産直とマルシェの基本は違うので位置づけを明確にすることや、ばんえい競馬のナイターも考慮した営業時間とすることが必要である。さらに、帯広市は環境モデル都市であるので、ソーラーパネルの設置などにより環境に配慮した施設づくりを目指すべきである。

・ばんえいと独立ではなく、レストランからゴールが見えるなど、密接に連携して欲しい。共栄通が開通したときの車の導線を配慮すべき。また、文化として残して欲しいし、残地の活用を含め、競馬場が中心になるようにしながらも、イベント時だけにやるのではなく、市民が何度となく利用できる施設にしてほしい。

・矛盾を抱えながら急ピッチで事業を進めている感がある。ばんえい競馬の位置づけがない。ばんえい存続のためではないとのことだが、なぜ、この場所で5年間なのか、市の所有とならないという疑問が残る。ばんえい競馬はギャンブルであり、産業振興ビジョンでの位置づけは難しい。なぜ、急ぐのかという疑問もある。

・拠点の定義はどうか、幸福駅との関連もある。産直に関しては、既存の集約か、

新規なのか。誰が入り運営していくのかが、今後の課題である。

- ・ 3つのゾーンだけでは、交流拠点とはならない。ばんえい競馬と観光拠点施設では客層が違うため、ばんえい十勝らしさが失われるのではないか。ばんえい競馬の集客アップにつながる施設となるかは現段階では疑問である。
- ・ ばんえい競馬の継続を決定したときには、馬産地の振興・馬文化の継承ということで単独開催に踏み切ったが、今回の施設は、ばんえい競馬のためではないと言うが苦しい印象しか受けない。
- ・ ばんえい競馬との連携が弱い。地域に根ざしたものでないと長続きはしない。競馬場内の厩舎は昭和40年代の風景を残した施設であり、歴史を大切にしたい事業として欲しい。
- ・ 皆さんの意見を踏まえた有意義な施設となることを望む。
- ・ 産業振興協議会では、「ばんえい」と「大学」は政治色が強いので特別に議論をさせてきた経過がある。振興会議には早い段階で議論のテーブルに挙げて欲しかった。ひとつの事業に、もうひとつの事業をかぶせると色々な問題が生じてくる。この施設は農商工連携の拠点施設とした方がビジョンに合う。行政にはダイナミックに民間の活用を考えてもらいたい。SPC（特別目的会社）は新しい形ではない。今では遅いが、建物の所有権と経営は分離した方が良いのではないか。或いは第三セクター方式が良いのではないか。今後の期待としては、持続可能な事業とし、雇用に活かして欲しい。
- ・ 道の駅を行政が設置すると考えたら、施設を行政が建設し、全額負担することになる。今回は民間事業者が20%負担するのだから安いとも言える。ネーミングも私案だが、「馬の駅」としたほうが良いのでは。
 - ⇒（市）今回の手法は法的にも整理をして、しっかりと事業をすすめていきたい。委員の皆さんからは、ばんえい競馬との関係を明確にすべきであるとの意見が多かった。ばんえい競馬が無くなれば、道内や東北のばん馬は生産されることはなくなる。今回の第1段階の事業を軌道に乗せ、今後、事業の拡大・拡充にも取り組んでいきたいと考えているのでご理解をお願いしたい。

（了）